

◆授業設計のポイント◆

- ・ 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化
- ・ 思考を広げ、深める手立ての工夫
- ・ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫

音楽科学習指導案

学 級 3年4組(男子20名・女子19名・計39名)

場 所 第2音楽室(1年校舎4階)

授業者 教 諭 本 田 章 子

1 題 材 曲が生まれた背景を理解して、作曲者の思いを感じ取りながら聴こう

[共通事項] 音色、速度、旋律、強弱

教 材 「ブルタバ(モルダウ)」(連作交響詩「我が祖国」から)(スメタナ 作曲)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年 B 鑑賞(1) イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」に関する内容である。

音楽教育の目標は、音楽を生かし生活を明るく豊かにするために、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音や音楽のよさや美しさに気付き、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、生涯にわたって音楽を愛好する心情と感性を育てながら豊かな情操を養うことである。そのため、限られた授業時数の中でも、できるだけ多くの音楽活動を体験させることで、音楽のよさを感じ、生涯にわたって音楽を愛好していこうとする生徒を育てたいと考えている。

音楽は、その背景となる文化・歴史や他の芸術から影響を受け、それが音楽の特徴となって表れている。音楽が生まれた背景に目を向けることは、音楽を形づくっている要素や構造、曲想を捉えるために必要なことである。音楽文化を理解することは、国際化の進展する現代において、我が国の音楽を理解するとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度の育成と、言語以外での音楽文化のコミュニケーションとして必要不可欠なものである。

また、鑑賞の活動を通して、音楽を形づくっている要素や構造について理解し、それによって曲の特質や雰囲気及び曲想が生み出されていることを根拠を持って自分なりに批評をするなどして、音楽のよさや美しさを味わうことができるよう指導することが大切である。

本教材の連作交響詩「我が祖国」はオーケストラによる標題音楽である。作曲家スメタナはオーストリアの圧政からチェコの独立を願いながら、チェコの自然や伝説、歴史に基づく交響詩を三曲作曲し、愛国精神を唱えた作曲者である。連作交響詩「我が祖国」の第2曲「ブルタバ(モルダウ)」は二つの水源から川が生まれ、エルベ川に合流するまでの川の様子や流域に見える人々の生活の様子が表現されている。本題材の学習を通して、楽譜や資料から作曲者の思いやチェコの歴史、文化を学び、言語表現や身体表現をしながら音楽を感受し聴き取ることで生徒の興味関心を高めたい。また、この曲は楽器の音色や旋律、強弱など音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して聴くことで、情景や曲の雰囲気が捉えやすい楽曲である。音楽の諸要素や構造と曲想との関わりを知覚しながら音や音楽を表現することは、歌唱や器楽、創作で大きな位置を占めているが、鑑賞の活動においても[共通事項]を指導し、表現、鑑賞、創作の各内容と

関連させて学習の深化を図るよう配慮することが大切である。

曲に対するイメージや思いを伝え合ったり共感したりして、音楽活動に主体的・協働的に取り組みながら音楽のよさや美しさを感じ味わうことで、今後の音楽活動に更に意欲的に取り組ませていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態（アンケート対象：3年4組 男子20名 女子19名 計39名 回答）

今回の学習に取り組むに当たって、事前調査を実施した。

- 1 音楽を鑑賞する時に、何に気を付けて鑑賞していますか。（複数回答）
速度（25人） 強弱（22人） 旋律（20人） 歌詞（19人） 音程（17人）
演奏形態・曲態（6人） 音色（5人） 響き（4人） フレーズ（4人）
作詞者・作曲者の思い（4人） その他（なし）
- 2 作曲者の思いや作曲の背景を考えたり、情景を想像したりしながら音楽を鑑賞したことがありますか。
はい（39人） いいえ（0人）
- 3 鑑賞した曲の中で印象深かった曲がありますか？
はい（14人） いいえ（25人）
「はい」と答えた人の曲名と印象深かった理由
「世界平和」：とても刺激的な歌詞，メロディも歌詞に合って，独特な歌い方だったから。
「魔王」：強弱がはっきりして，情景が思い浮かべやすかった。
「運命」：ダダダダーンのリズムが運命の扉を叩いているみたいだった。
「ポポリズ」：呪文みたいなのが気になった。
「春」：主題が次々と変わるのが面白くてきれいだった。
- 4 音楽の授業でのグループ学習（合唱や合奏でのパート練習，ペア練習）は好きですか。
好き（16人） どちらかといえば好き（12人） どちらかといえば嫌い（8人） 嫌い（3人）
好きな理由：楽しい。確認し合いながら演奏できる。ハーモニーが合うと気持ちが良い。
教え合える。
嫌いな理由：一人で歌う方が好き。合唱も合奏も下手だから。友達に迷惑をかける。
音が外れている。
- 5 音楽の授業でのグループ学習（表現や鑑賞での話し合い活動）で自分の意見や考えを発表できますか。
できる（10人） どちらかといえばできる（16人） どちらかといえばできない（9人）
できない（4人）
できると答えた理由：思ったままを言えばいい。鑑賞が好き。意見交換は大切。
自分の意見が相手の「気づき」になるかもしれない。
できないと答えた理由：音楽用語があまり分からない。発表は苦手。

アンケートの結果から、曲を鑑賞する際、題材名や歌詞、強弱記号などを楽譜から読み取り、意欲的に曲想を捉えようとしていることが分かる。しかし、フレーズや音色、響き、作詞者・作曲者の思いなどに気を付けながら鑑賞している生徒はあまり多くないことから、フレーズや音色、響きが曲の中でどのような働きをしているか知覚させ、自然や歴史、文化との関わりや作曲者の思いを感じ取りさせる指導を行っていきたい。音楽を形づくっている諸要素や構成と作曲者の思いとの関わり合いを感じ取りながら鑑賞することは、作曲者の思いや音楽が生まれた背景が曲に反映されながら曲想として表れていることを味わうことである。また、

今後の様々な鑑賞活動でも曲の背景について考えながら鑑賞していくよう取り組ませたい。

授業形態では、ペア活動やグループ活動で教え合ったりハーモニーを楽しんだりして、互いに高め合う学習に意欲的に取り組んでいることが分かる。一方では、このような活動が苦手だと感じている生徒がいることにも配慮する必要がある。対話的な活動を多く取り入れ、友達の意見を聞きながら共感したり、自分の考えとの相違点に気づき、新たな自分の考えをつくり出す楽しさや、高め合う喜びを感じ取らせたい。また、自分の考えや他者の考えの根拠となるものを互いに理解し合いながら、基礎的な音楽知識や言語表現力の向上にもつなげていきたい。

(3) 指導観

ア 旋律、速度、強弱、楽器の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせ、試行錯誤する生徒の思考の過程を想定し、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組ませる。

イ ペア活動やグループ活動の中で、生徒が主体的に活動できる場を多く設定し、個々の持った思いや意図を他者と話し合ったりグループで紹介文を作成したりするなどの学び合う活動を通して、意欲的に鑑賞活動に取り組ませる。

ウ 学習のプロセスを見通し、振り返る場面を設定し、学ぶことや次の学習への意欲を喚起させたり、学んだことの意味や価値を自覚させたりすることで、今後の音楽活動への意欲につなげさせる。

3 題材の目標

(1) 音楽の特徴やその背景となる文化・歴史との関連に関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組むことができる。 (ア 音楽への関心・意欲・態度)

(2) 音楽の諸要素や構造を知覚し、それらの働きが生み出す音楽の特徴や雰囲気を感じ、解釈したり、価値を考えたりしたことを言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

(エ 鑑賞の能力)

4 題材における評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
○ 音楽の特徴やその背景となる作曲者の思いや文化、歴史に関心を持ち、そこから生み出される曲想を感じ取って、学習に意欲的に取り組もうとしている。	○ 音楽を形づくっている要素や構造を知覚し、それぞれの働きが生み出す音楽の特徴や雰囲気を感じながら、曲想との関わりを理解して聴いている。
○ 音楽を形づくっている諸要素や奏法と曲想や曲の雰囲気との関わりに関心を持ち、鑑賞活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。	○ 曲の特徴や雰囲気及び曲想が音楽の諸要素や構造などによって生み出されていることを理解し、根拠を持って自分なりに批評をするなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

5 題材の指導計画（全3時間）[単位時間における評価規準]

時	主な学習活動	単位時間における評価規準	
		ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
1	<p>1 [共通事項]や、アーティキュレーションなどの奏法から表現されるブルタバの様子を感じ取る。</p> <p>2 作曲者の母国の歴史や人々の生活や風景について学ぶ。</p> <p>3 ブルタバの様子を表す旋律の部分の楽譜や、標題を基に鑑賞し、標題の紹介文を作成する。</p>	<p>○ 曲想を捉え、川の様子をイメージし、言葉や身体で表現しようと意欲的に取り組んでいる。</p> <p>○ 圧政を受けた歴史や文化、人々の生活について積極的に理解しようとしている。</p>	<p>○ 演奏を聴いてイメージしたことを根拠を持って説明できる。</p> <p>○ 作曲者の母国への思いやこの音楽が生まれた背景を想像しながら聴くことができる。</p> <p>○ アーティキュレーションや楽器の音色を基に鑑賞し、根拠を持って紹介文を作成できる。</p>
2 (本時)	<p>4 グループごとに[A]・[C]・[D]・[E]の各部分の演奏を聴き、互いに意見を出し紹介文を作成する。</p> <p>5 各グループの紹介文からその部分の曲想をイメージし、作曲者の思いや曲が生まれた背景について考えながら鑑賞する。</p>	<p>○ 曲の雰囲気や曲想との関わりに関心を持ち、音楽を形づくっている諸要素や奏法が情景や作曲者の思いをどのように表現しているか主体的に捉えようとしている。</p> <p>○ 各グループで作成した紹介文を基に、曲想をイメージしようとしている。</p> <p>○ 作曲の背景となっている母国の歴史や文化、自然との関わりを感じ取ろうとしている。</p>	<p>○ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す曲の特徴や雰囲気を感じしながら、音楽のよさや美しさを味わい、言葉や文章で表現できる。</p> <p>○ グループごとの紹介文を基に各部分の曲のイメージを持ちながら演奏を聴き、作曲者の思いやこの曲が生まれた背景などを関連付けて言葉や文章で説明することができる。</p>
3	<p>6 前時で作成した紹介文を基に曲想を捉えながら[A]～[E]まで聴く。</p> <p>7 曲の最後の部分である[F]・[G]の曲想を予想する。</p> <p>8 全曲の標題を川の流れて確認し、楽曲全体を味わって聴く。</p>	<p>○ チェコの情景や歴史的背景、文化を理解し、曲に対する作曲者の思いを意欲的に考えようとしている。</p>	<p>○ 作曲者の思いや曲が生まれた背景が曲の構成や形式などと関連していることを理解しながら聴くことができる。</p> <p>○ 曲の最後の部分である[F]・[G]がどのような曲想であるか、自分の言葉や文章で表現できる。</p> <p>○ これまでの紹介文作成の活動を通して、感じ取った曲のよさや美しさを味わいながら聴くことができる。</p>

6 本時の実際（2／3）

- (1) 題材 曲が生まれた背景を理解して、作曲者の思いを感じ取りながら聴こう。
- (2) 目標 作曲者の思いや音楽が生まれた背景が、音楽を形づくっている要素や奏法によって曲の雰囲気や曲想をつくり出していることを理解しながら聴くことができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化 研究の視点1

深い理解に至った生徒の姿とは、作曲者の思いや音楽が生まれた背景が音楽を形づくっている要素や奏法によって曲の雰囲気や曲想をつくり出していることを理解しながら、音楽のよさや美しさを自分なりの言葉で説明したり、価値を考えたりしながら味わって聴いている姿のことである。

- ・ 生徒の思考の流れ（気付き→納得→意思）を想定し、既習事項の活用や比較により試行錯誤させることで、主体的な鑑賞活動につなげさせる。

イ 思考を広げ深める手立ての工夫 研究の視点2

- ・ 既習事項を生かし、音楽が生まれた背景や歴史と音楽との関わりについて考えさせ、言語活動や身体表現など多様な活動を通して主体的な鑑賞活動になるよう工夫する。
- ・ 資料や楽譜を見ることで持った自分の思いや考えを基に、ペア活動やグループ活動で意見交換させることで、自分の思いや考えを深めさせ、主体的に鑑賞活動に取り組むよう手立てを工夫する。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫 研究の視点3

- ・ 学習のプロセスを見通し、振り返る場面を設定し、学習評価表を活用させることで学んだことの意味や価値を自覚させ、今後の学習への意欲につなげさせる。

(4) 展開

過程	時間経過	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
導入	3分 一斉 2分 一斉	1 ブルタバを表す旋律の演奏を聴き、前時の学習内容を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 作曲者はどのような思いを込めてこの曲を作曲したのだろうか。 </div>	○ 前時の学習内容を振り返り、本時の学習への意欲を高める。 ※ 本時の課題と学習の流れについて提示することにより、学習の見通しを持つことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">研究の視点3</div>
個人	6分	3 四つのグループに分かれ、 A ・ C ・ D ・ E の楽譜や演奏から曲想を聴き取って気付いたことをワークシートにまとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> [気付き] P1：フルートの優しい音色から細い川をイメージすることができた。 P2：クラリネットの二重奏から川の折り重なりながら流れる様子が想像できた。 P3：リズムが跳ねる感じなので楽しそうに踊りを踊っていそうだ。 </div>	○ 既習事項や[共通事項]を活用し曲の雰囲気や曲想を感じ取らせ、自分の考えをまとめることができるようにする。 ※ 楽譜のリズムや演奏楽器の音色に着目しながら読譜させることで、情景や作曲者の思いが音楽で表現されていることに気付かせ、学習意欲の向上につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">研究の視点1</div>

展 開	グループ 15分	4 グループごとに紹介文を作成する。	○ 感じ取った曲想をグループで意見交換させる。 ○ 楽譜を活用し、曲に対する作曲者の思いを想像させながら紹介文を考えさせる。 ※ 自分の思いや考えを互いに出し合い、楽器の音色の特徴や曲の雰囲気をつかえさせることで個人の考えや思いが深まる。 研究の視点2 ◎ 楽譜を見ながら演奏を聴き、[共通事項]や楽器の音色を知覚し、作曲者の思いと音楽との関わりを感じ取って、言葉や文章で表現できている。
	15分 一斉	5 各グループで作成した紹介文を聞き、曲の感じをイメージしながらその部分の演奏を鑑賞する。	○ 各グループの紹介文を掲示し、情景を思い浮かべたり、作曲者の曲に対する思いを感じ取りながら鑑賞できるようにする。
開	5分 個人	6 鑑賞して気付いたことを発表する。 [納得] P1：フルートの音色から小さい川の流れていく様子が想像でき、母国の自然の豊かさを表している。 P2：人々の平和な生活を表現することによって、愛国心を表わしている。 P3：急流を表す情景はオーストリアの圧政の様子や圧政に対する怒りが込められている。	○ 音楽が生まれた背景や作曲者の思いが、音楽を形づくっている要素や奏法、楽器の音色などによって表現されていることを知覚させる。 ◎ 楽譜に付けられている記号やリズム、楽器の音色によって音楽が生まれた背景や作曲者の思いが表現されていることを理解し、オーケストラの多彩な表現によって、更に高い演奏効果をもたらされることを聴き取り、言葉や文章で説明することができる。
	1分 個人	7 本時の振り返りをする。 作曲者は音楽に母国を愛する気持ちや圧政への怒りを込め、音楽によって母国の平和を訴えようとした。	
終 末		8 自己評価をする。 [意志] P1：音楽鑑賞の時に標題と楽器の音色の関わりに気を付けて聴いてみよう。 P2：よく楽譜を見てアーティキュレーションや音楽記号に気を付けて鑑賞しよう。 P3：作曲者の思いや音楽が生まれた背景について考えながら鑑賞しよう。	※ 学習評価表で、授業を振り返るとともに、学習内容を自覚させることで、次の学習へのつながりを意識することができる。 研究の視点3
	1分 一斉	9 次時の予告を聞く。	○ 生徒の活動や変容を認めることで、次時の学習への意欲を高める。